

文部科学省委託事業

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

(専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証)

電気通信工事業界のための
高等学校及び専門学校連携による
人材育成モデル構築事業

成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、株式会社東京リーガルマインドが実施した令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

令和6年 3月

株式会社 東京リーガルマインド

内容

第1章 事業の概要	1
第1節 事業の趣旨・目的等について	1
第1項 事業の趣旨・目的	1
第2項 学習ターゲット、目指すべき人材像	1
第2章 事業の実施	2
第1節 実施体制	2
第1項 構成機関	2
第2項 事業の実施体制	3
第3項 各機関の役割・協力事項について	4
第2節 令和4年度の実施内容	6
第1項 実施内容の全体像	6
第2項 事業推進体制の整備	8
第3項 意識調査アンケートの実施	10
第4項 育コンテンツの開発と実証講座の実施	17
第5項 業界紹介イベントの開催	26
第3節 事業実施に伴うアウトプット(成果物)	30
第1項 年度別(令和3~8年度)アウトプット一覧	30
第2項 令和5年度アウトプット<教材開発/実証講座>	31
第3項 事業実施によって達成する成果及び測定指標	32
第3章 最終年度までの具体的な取組	34
第1節 計画の全体像	34
第2節 本事業終了後の成果の活用方針・手法	37

第1章 事業の概要

第1節 事業の趣旨・目的等について

第1項 事業の趣旨・目的

電気通信工事、保守点検・検査などを行う電気通信工事業界の売上高は、2017年頃から増加が続いていたが、2019年から2021年にかけてはコロナ禍の影響もあり若干の減少になった。しかし2022年には情報インフラへの投資が持ち直し、前年比0.7%増の約5.1兆円となった。AIの進化、IoTの普及、DXの進展等に伴い、今後は5Gなどモバイル基地局や大規模データセンターなどの情報インフラ投資がより堅調になると予想される。

国土交通省が発表した統計によれば、建設業界2023年の就業者数(建設業全体)は483万人で、過去漸減傾向にあり2007年(552万人)と比較すると約13%の減少である。また同統計によると、2023年における建設業界の就労者年齢構成は、29歳以下の割合が12%(全産業では17%)で、55歳以上の割合が51%(全産業では44%)であり、若者に敬遠され、就業者の高齢化が問題となっている。

2021年、政府は、「新しい資本主義」の実現に向けて、その重要な柱として、地方でのデジタルの実装を進め活力ある地域づくりを目指す「デジタル田園都市国家構想」を掲げた。この構想実現のために、総務省は「デジタル田園都市国家インフラ整備計画」を作り、そのなかで5Gも不可欠なデジタル基盤の一つに挙げられている。5Gネットワーク整備に向けても、電気通信工事人材の育成は急務である。

以上のような背景から、情報系専門学校と工業高校の連携により、それぞれの新卒人材を電気通信工事業界に輩出すべく業界企業とのコンソーシアムを編成することで産業界のニーズに見合った人材育成カリキュラムの開発、民間資格の創出、新卒採用及び関連教育のプラットフォームの構築など、高等学校入学から、専門学校進学、就職後のキャリアパスまでを明確にし、入職後の離職問題に対するフォローアップまでも含めた人材育成モデル事業を実施する。

第2項 学習ターゲット、目指すべき人材像

高校卒業時においては、業界への興味や理解を促進し、社会に出る前にITを含めた基礎教育とエントリーレベルの専門教育によって入職者の増加と職業定着を目指す。

高等学校での業界向け課程の修了を受け、専門学校では、さらに、ドキュメンテーション能力、プロジェクトマネジメント能力の基本と、実務に有効な資格(工事担任者、陸上特殊無線技士)班長(職長)を想定したリーダーシップを伴う職業人の育成を目指す。

第2章 事業の実施

第1節 実施体制

本事業では、令和4年度については、以下のような構成機関により実施委員会、調査部会、開発・実証部会を構成し、事業を推進した。

第1項 構成機関

(1) 高等学校

	名称	役割等	都道府県名
1	埼玉県立川口工業高等学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
2	埼玉県立三郷技術工業高等学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
3	埼玉県立大宮工業高等学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
4	学校法人山口松陰学園 みなとみらい学習センター	調査・開発協力・評価	山口県・神奈川県
5	ヒューマンキャンパス高等学校 秋葉原学習センター/大宮学習センター	調査・開発協力・評価	東京都・埼玉県

(2) 行政機関

	名称	役割等	都道府県名
1	埼玉県教育局 県立学校部 高校教育指導課	開発協力・評価	埼玉県

(3) 専門学校

	名称	役割等	都道府県名
1	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
2	学校法人東京町田学園 町田デザイン&建築専門学校	調査・開発協力・評価	東京都
3	学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ 麻生情報ビジネス専門学校	調査・開発協力・評価	福岡県

(4) 企業

	名称	役割等	都道府県名
1	JESCO エキスパートエージェント株式会社	調査・開発協力・評価	東京都
2	西武建設株式会社	調査・開発協力・評価	埼玉県
3	株式会社ミライト・モバイル・イースト	調査・開発協力・評価	東京都
4	株式会社タカデン	調査・開発協力・評価	東京都
5	株式会社リガーレ	調査・開発協力・評価	埼玉県

6	株式会社町田電話工業	調査・開発協力・評価	東京都
7	株式会社井上通信	調査・開発協力・評価	東京都
8	株式会社大電テクニカ	調査・開発協力・評価	千葉県

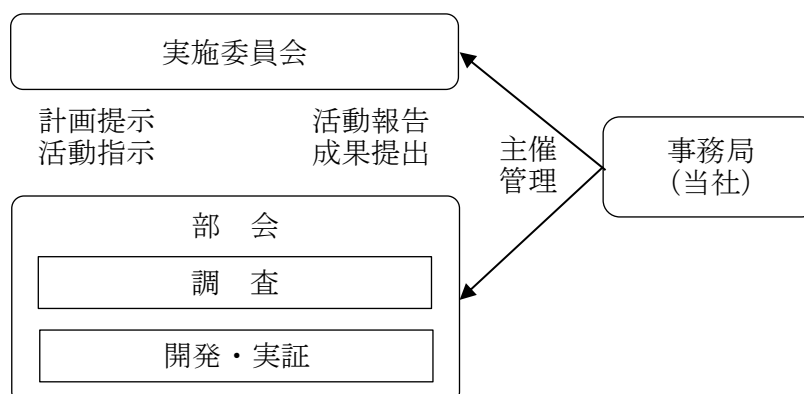
(5)コーディネーター

	名称	役割等	都道府県名
1	株式会社東京リーガルマインド	事業統括	東京都

第2項 事業の実施体制

本事業では、実施体制として「実施委員会」「調査部会」「開発・実証部会」の3組織を設置した。各組織の概要は以下の通りである。

なお、株式会社東京リーガルマインドは各組織の会議主催者として座長を務めるとともに、事務連絡・経費管理・請負業者手配等の各種事務作業を担当した。



○ 実施委員会

構成員：教育機関、行政機関、業界企業、学識者

役割： 事業計画・事業活動方針の策定、部会への作業指示、
活動内容の承認・評価、活動成果の評価

○ 調査部会

構成員：業界企業・団体、教育機関

役割： 調査企画、調査対象検討、調査票作成、集計結果分析、調査報告書作成

○ 開発・実証部会

構成員：高等学校、専門学校、業界企業、行政機関

役割: カリキュラム設計、教材設計、開発教材評価・修正、開発報告書作成、
実証講座企画・設計、実施結果分析、実証講座実施報告書作成
高・専一貫のプログラムは、下記の高等学校と専門学校が中心となり
開発する

●プログラム開発校

高等学校	専門学校
埼玉県立川口工業高等学校 埼玉県立三郷工業技術高等学校 埼玉県立大宮工業高等学校	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校
学校法人山口松陰学園	学校法人東京町田学園 町田デザイン&建築専門学校
学校法人佐藤学園ヒューマンキャンパス高等学校	建築専門学校 学校法人麻生塾麻生情報ビジネス専門学校

第3項 各機関の役割・協力事項について

○高等学校

- 埼玉県立川口工業高等学校
埼玉県立三郷技術工業高等学校
埼玉県立大宮工業高等学校
学校法人山口松陰学園松陰高等学校
学校法人佐藤学園ヒューマンキャンパス高等学校
- ・産業界のニーズを反映したエントリーレベルカリキュラム開発
 - ・専門学校との教育コンテンツ連携(開発助言)
 - ・実証講座モデル校
 - ・新卒作業員人材の育成・輩出

○行政機関

- 埼玉県教育局 県立学校部 高校教育指導課
- ・他の県立高校に対する業界及び事業のPR
 - ・人材プラットフォームへの参画促進
 - ・地域事業としての高校-専門学校連携に対する意見、提案、監督

○専門学校

- 学校法人中央情報学園 中央情報専門学校

学校法人東京町田学園 町田デザイン&建築専門学校

学校法人麻生塾 麻生情報ビジネス専門学校

- ・ 産業界ニーズを反映した上位カリキュラム開発
- ・ 高校との教育コンテンツ連携
- ・ 新卒職長(責任者)レベル人材の育成・輩出
- ・ 事業モデルの全国水平展開を見据えた福岡モデルの展開、実践

○企業

株式会社東京リーガルマインド<事業コーディネーター>

- ・ 高校→専門学校→電気通信工事業界の一気通貫型の人材プラットフォームを構築・運営
- ・ 職業教育、人材マッチングイベント企画実施
- ・ 在学中及び入職後のキャリアコンサルタントの派遣
- ・ 事業モデル全国水平展開のコーディネート

JESCO エキスパートエージェント株式会社 他 6 社

- ・ 必要とされる人材像、教育、及びキャリアパスの再定義
- ・ 本プログラムからの新卒人材採用
- ・ 業界の及び職業の若者に対する PR(職業体験など)
- ・ 業界紹介イベントにおけるセンター施設利用体験プログラムの提供

第2節 令和4年度の実施内容

第1項 実施内容の全体像

A. 事業推進体制の整備

R4 成果：埼玉県立三郷工業技術工業の事業参加、通信制高校との連携基盤

R5 課題：通信制高校との連携の発展。

全国展開のための足掛かりとなる高等学校・専門学校の開拓・協力



R5 取組：埼玉県立大宮工業高校の事業参加、全国水平展開の足掛かりとなる麻生情報ビジネス専門学校、ヒューマンキャンパス高等学校福岡学習センターの事業参加、通信制高校との連携基盤強化

B. 意識調査アンケートの実施

R4 成果：全国の対象となりうる高校 80 校へアンケート依頼、31 校の学生 1871 名より回答

R5 課題：アンケート項目の簡素化、高校への依頼アプローチ方法の改善



R5 取組：アンケート項目を簡素化し、設問に選択式も導入。QRコードを読み込み回答する方式に統一化。過去2年分の成果報告書を郵送し事業に対する理解、協力を得られやすいよう工夫（詳細は後述）。

C. 「情報」分野の教育コンテンツの開発と実証講座の実施

R4 成果：「情報」の1/4部分に当たる「プログラム入門（ゲーム編）」教材とその運用方法を開発。松陰高校みなとみらい学習センターにて25名対象に実施。職業とプログラミングの関連等、対面授業のメリットを発揮。

R5 課題：授業のやり方を標準化し、教育可能な講師を量産するために講師用の教材を開発



R5 取組：「情報」の2/4部分に当たる「ネットワーク入門」講座を開発。ヒューマンキャンパス高校大宮学習センターにて、17名を対象に12月に実施。ネットワークについて興味と関心を深める実証講座を展開。
見学した教諭にも講義方法を伝授。
同じ実証講義を松陰高校みなとみらい学習センターにて、22名を対象に1月に実施。
両校とも生徒／教諭から高評価（詳細は後述）。

D. CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材開発と実証講座の実施

R4 成果：Cisco システムズを参照した実証講義コンテンツの開発

R5 課題：三郷工業技術高等学校、川口工業高等学校における実施を令和 5 年度に計画。高等学校と専門学校による連携体制構築も実証趣旨に含む。



R5 取組：昨年度開発した CCNA/CCENT 講座の教材を改良改修し、三郷工業技術高校にて実証講座の実施。3 時間×3 日間 2 グループに分けて実施（詳細は後述）。

E. その他の教材開発等

キャリア教育講座の制作

通信建設エンジニアリング講座（ライフライン/設備編）の教材制作と試験問題の制作、中央情報専門学校での講座の実施

F. 業界紹介イベントの開催

R4 成果：高校生 81 名、専門学校生 25 名のイベント参加

R5 課題：オンラインでのイベントの集客及び参加への強化



R5 取組：12/20 イベント実施。昨年度より参加工業高校が 1 校増え、高校生 87 名、専門学校生 13 名が参加。企業の協力を得て指導員も増やし、昨年度から更に職業体験コンテンツの充実を図る一方で、事故のない安全な実施のため誘導體制も強化（詳細は後述）。

G. 通信建設プラットフォーム（ホームページ）開設・運営

R4 成果：通建プラットフォームの開設・運営、e ラーニング LMS 搭載

R5 課題：フォロワー数の伸び悩み、SNS 経由のイベント集客の困難性
集客方法の改善



R5 取組：通建プラットフォームのデザインの改良改修。業界の特性を踏まえた集客方法については、継続して模索中。

上記 A～G の項目につき、以下（第 2 項～第 6 項）に詳細を記載します。

第2項 事業推進体制の整備

○事業を推進する上で設置した会議

会議名 ①	令和5年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」実施委員会		
目的・役割	事業計画・事業活動方針の策定、部会への作業指示、活動内容の承認・評価、活動成果の評価		
検討の具体的内容	事業目的と推進協力のコンセンサスを得る。 全体のスケジュールと令和5年度実施項目確認。 イベント及び連携プログラム開発、並びに実証の仕様の承認。 調査結果・開発成果の評価、成果物の承認などに関する討議。 実働により確認された課題と次年度申し送り事項(優先事項)を協議。		
委員数	13人	開催回数	1回

令和5年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」実施委員会の構成委員

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1 小菅 厚	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校	調査・開発協力・ 評価	埼玉県
2 市川 直洋	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校 教頭・就職部長	調査・開発協力・ 評価	埼玉県
3 中西 徳孝	学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ 麻生情報ビジネス専門学校	調査・開発協力・ 評価	福岡県
4 高橋 秀夫	埼玉県教育局県立学校部 高校教育指導課産業教育・キャリア教育担当 指導主事	調査・開発協力・ 評価	埼玉県
5 後藤 泰介	埼玉県立川口工業高等学校 進路指導部	調査・開発協力・ 評価	埼玉県
6 佐藤 幸一	埼玉県立三郷技術工業高等学校 情報通信科	調査・開発協力・ 評価	埼玉県
7 万沢 一成	埼玉県立大宮工業高等学校 電気科	調査・開発協力・ 評価	万沢 一成
8 湯山 俊樹	学校法人山口松陰学園 松蔭高等学校 校長	調査・開発協力・ 評価	山口県 東京都
9 唐澤 輝	学校法人佐藤学園 ヒューマンキャンパス高等学校東 日本ブロック長	調査・開発協力・ 評価	埼玉県

10	野沢 文男	学校法人東京町田学園 町田デザイン&建築専門学校 通信教育室	調査・開発協力・ 評価	東京都
11	井上 永徳	JESCO エキスパートエージェント 顧問	調査・開発協力・ 評価	東京都
12	川崎 正人	株式会社東京リーガルマインド 公共事業本部 マネージャー	事業統括	東京都
13	岡本 史子	株式会社東京リーガルマインド 公共事業本部 マネージャー	事業統括	東京都

第3項 意識調査アンケートの実施

○事業を推進する上で実施した調査

調 査 名	意識調査アンケート																																														
調 査 目 的	電気通信工事業界の認知度測定、経年推移測定 業界の認知度の段階的向上・業界に対するイメージ向上																																														
調 査 対 象	全国の工業高等学校、情報通信科・情報技術科に在籍する高校生 1年生・2年生が対象																																														
調 査 手 法	WEBアンケート ① 意識調査の対象となる学科設置校を検索・抽出し、学校長・教頭・学科担当教員に趣旨を説明、了承を得たうえで、WEBアンケートのQRコードをメールで送付、学生への配布を依頼。 ② 業界紹介イベント会場での実施																																														
調 査 項 目	電気通信建設業界に対するイメージ、就職や進路選択、高校生活に関する事柄、社会情勢への意識等 45項目																																														
分 析 内 容 (集計項目)	※アンケート結果の分析内容(集計項目)は、グラフにて後述																																														
調 査 結 果	<p>全国の対象学科設置校約35校への呼びかけに対し、以下の25校の協力が得られ、学生1270名より回答を取得(1270名は、質問に対する回答最大数)</p> <p style="text-align: center;">【アンケート回答学校一覧】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2">北海道</td> <td>苫小牧工業高等学校</td> <td>千葉県</td> <td>東総工業高等学校</td> </tr> <tr> <td>函館工業高等学校</td> <td>大阪府</td> <td>茨木工科高等高校</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">青森県</td> <td>八戸工業高等学校</td> <td>三重県</td> <td>桑名工業高等学校</td> </tr> <tr> <td>弘前工業高等学校</td> <td>岡山県</td> <td>水島工業高等学校</td> </tr> <tr> <td>宮城県</td> <td>登米総合産業高等学校</td> <td>高知県</td> <td>宿毛工業高等学校</td> </tr> <tr> <td>秋田県</td> <td>大館桂桜高等学校</td> <td>香川県</td> <td>坂出商業高等学校</td> </tr> <tr> <td>山形県</td> <td>米沢工業高等学校</td> <td rowspan="2">福岡県</td> <td>苅田工業高等学校</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">埼玉県</td> <td>久喜工業高等学校</td> <td>戸畑工業高等学校</td> </tr> <tr> <td>大宮工業高等学校</td> <td>博多工業高等学校</td> </tr> <tr> <td>川口工業高等学校</td> <td rowspan="2">熊本県</td> <td>天草工業高等学校</td> </tr> <tr> <td>久喜市久喜工業高校</td> <td>八代工業高等学校</td> </tr> <tr> <td></td> <td>三郷工業技術高等学校</td> <td>沖縄県</td> <td>浦添工業高等学校</td> </tr> <tr> <td>千葉県</td> <td>京葉工業高等高校</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			北海道	苫小牧工業高等学校	千葉県	東総工業高等学校	函館工業高等学校	大阪府	茨木工科高等高校	青森県	八戸工業高等学校	三重県	桑名工業高等学校	弘前工業高等学校	岡山県	水島工業高等学校	宮城県	登米総合産業高等学校	高知県	宿毛工業高等学校	秋田県	大館桂桜高等学校	香川県	坂出商業高等学校	山形県	米沢工業高等学校	福岡県	苅田工業高等学校	埼玉県	久喜工業高等学校	戸畑工業高等学校	大宮工業高等学校	博多工業高等学校	川口工業高等学校	熊本県	天草工業高等学校	久喜市久喜工業高校	八代工業高等学校		三郷工業技術高等学校	沖縄県	浦添工業高等学校	千葉県	京葉工業高等高校		
北海道	苫小牧工業高等学校	千葉県	東総工業高等学校																																												
	函館工業高等学校	大阪府	茨木工科高等高校																																												
青森県	八戸工業高等学校	三重県	桑名工業高等学校																																												
	弘前工業高等学校	岡山県	水島工業高等学校																																												
宮城県	登米総合産業高等学校	高知県	宿毛工業高等学校																																												
秋田県	大館桂桜高等学校	香川県	坂出商業高等学校																																												
山形県	米沢工業高等学校	福岡県	苅田工業高等学校																																												
埼玉県	久喜工業高等学校		戸畑工業高等学校																																												
	大宮工業高等学校	博多工業高等学校																																													
	川口工業高等学校	熊本県	天草工業高等学校																																												
	久喜市久喜工業高校		八代工業高等学校																																												
	三郷工業技術高等学校	沖縄県	浦添工業高等学校																																												
千葉県	京葉工業高等高校																																														

[アンケート結果要約]

① 学年(問1)

約60%が2年生、約40%が1年生であった。

② 通建業界に対するイメージ(問2～7)

・「建設」あるいは「通信建設」という言葉に対しては約80%が「キツイ」、約40%が「危険」のイメージ

・一方で、インフラ工事業に対しては、約50%が「関心あり」とし、約80%が通信・インターネットの知識が日常生活に恩恵をもたらし、生活に必要なとの認識

・さらに、資格が必要な業種・職種と捉えている

③ 就職に対するイメージ(問8～18)

・「高校卒業後は、就職する」が約52%、それ以外は進学、多くは未確定(「未確定」が約半数)

・就職先としては「通勤可能」「定時」が好まれるが、一方で「給料よりも楽な仕事」には否定的で、「キツくてもやりがい」といった傾向も見られる。「会社経営」には消極的

・ではどのような仕事かと言えば約50%は「自分のやりたい仕事が見つからない」という状況(就職先選択については問25・26)

・仕事選びについては約80%が誰かに相談するとしており、相談相手としては約60%が親・兄弟であった

・「働かざる者食うべからず」には7割弱が同意しており、まじめに働くことの意識は低くはない

④ 高校生活に対するイメージ(問19～22)

・約80%は「専門的・技術的な授業」「実習授業」を好み、約50%は「専門資格の勉強」は楽しいとし、40%強が「授業を通じて、将来の職業を具体的にイメージできる」としている

⑤ 進路選択(就職先選択)に対するイメージ(問25～26)

・就職先に関する情報としては、「給与や働き方(休日／残業など)」を最も重視しており、次いで「やりたい仕事か」で、この2つで約7割を占める。

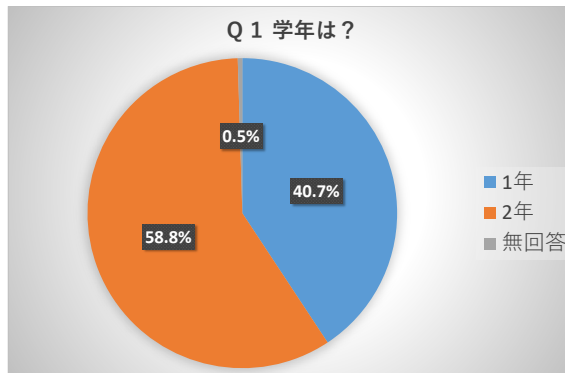
・就職先選択にあたっては、「会社の雰囲気・社長や従業員の人の人柄」を最も重視し、次いで「企業・業界の将来性」、「会社や勤務地の立地」が続き、この3つで約7割を占める。

	<p>⑥ 専門学校に対するイメージ(問27～28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門学校には「やりたいことが決まっている人が進学する」イメージ ・一方で、「社会人になってからも入学できる」イメージ <p>[考察]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の通建業界に対するイメージとしては、肉体的にはネガティブである。しかし、約50%が業界へ関心を示しており、技術的な重要性も約80%が理解していると思われる。適切なアピールにより、業界に対するイメージアップにつながると思われる。 ・卒業後の進路選択については、「就職」が半数(全体の約50%)、残り50%については「進学」と「就職でも進学でない・未回答」が半々であり、全体の約25%は進路が定まっていない。 ・「就職」を選択した生徒たちは、「給料よりも楽な仕事」には否定的で、かつ「キツくてもやりがい」といった前向き姿勢が見られるが、具体的な職業となると半数は「自分のやりたい仕事が見つかっていない」 ・生徒たちは資格取得に係る授業に意欲的に取り組む傾向が強い。資格からは具体的な職業イメージを持てるためと思われるが、このような授業を強化することが「やりたい仕事」探しの一助になるものと思われる。 ・就職先選択に際しては、給与、業界の将来性が重視されるのは因襲的であるが、会社の雰囲気・社長や従業員の人柄も重要視されている。募集に際して企業の一考が必要な点と思われる。
<p>開発する教育プログラムにどのように反映するか(活用手法)</p>	<p>① 来年度以降、評価基準開発において必要な知識やスキルの参考とする。若者(高校生)が「学んでみたい」と感じる、若者の興味を引く内容の教育コンテンツ開発、イベント企画に活用する。</p> <p>② 就職への意識(何を重視するか等)、学生の業界へのイメージ、業界に就職することへの懸念事項を調査・分析し、そこから来年度以降、業界のイメージアップや就職への不安払拭のための施策、業界へ人材を輩出するための施策の企画・立案に活かす。</p>

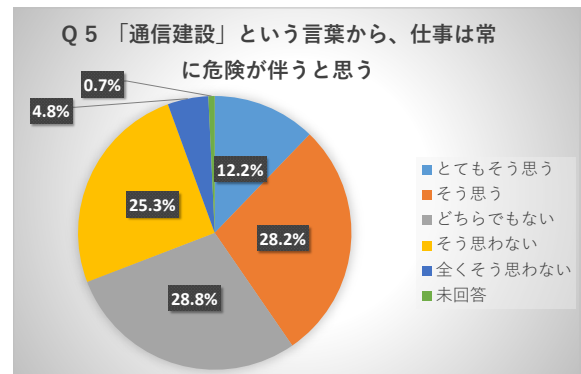
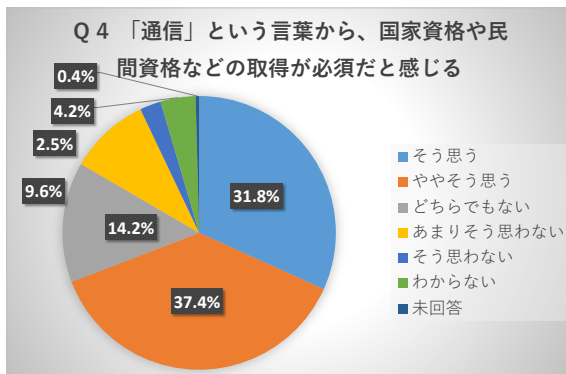
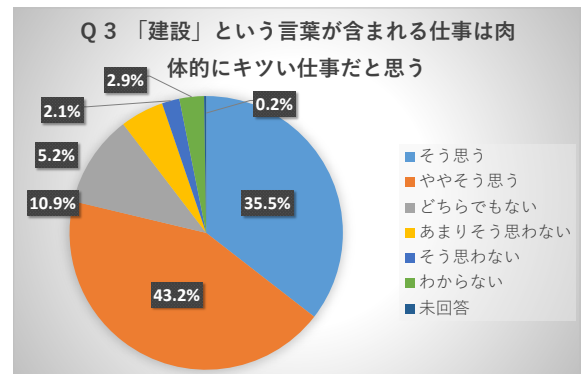
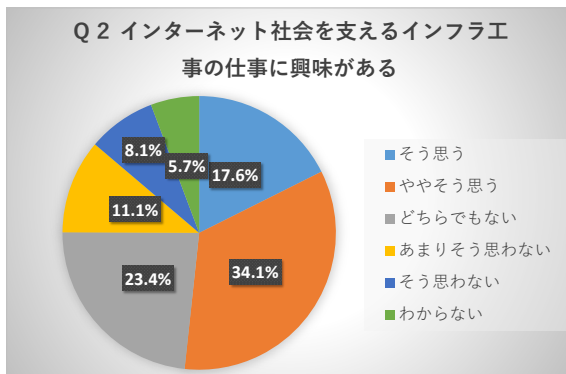
調査結果

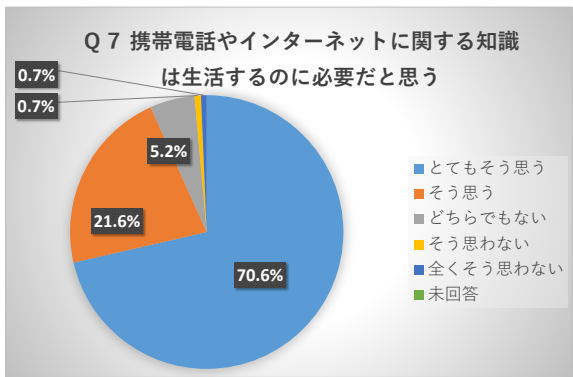
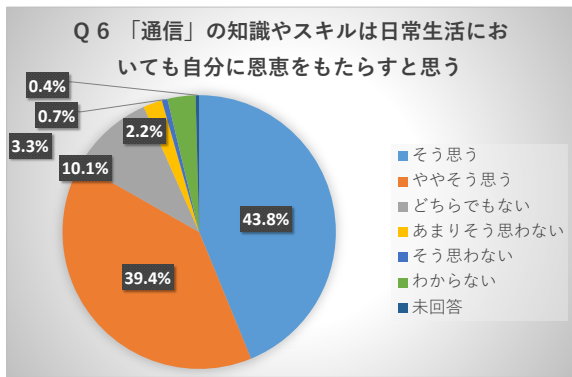
アンケートへの回答集計結果(n=1,270)

学校生の学年

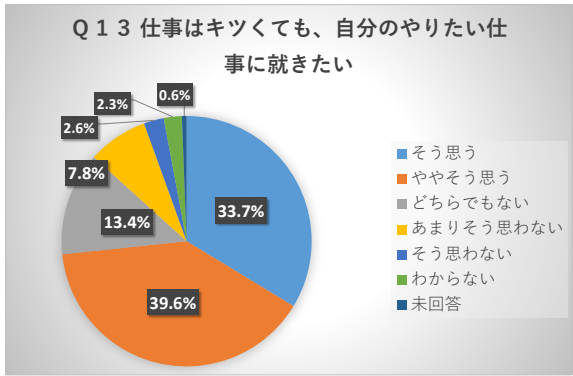
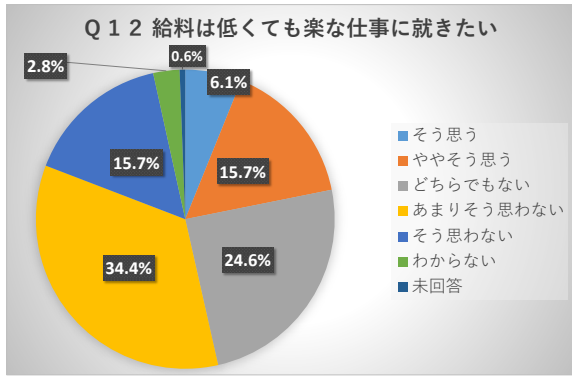
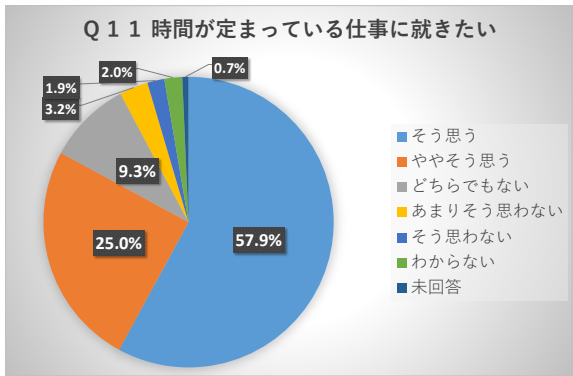
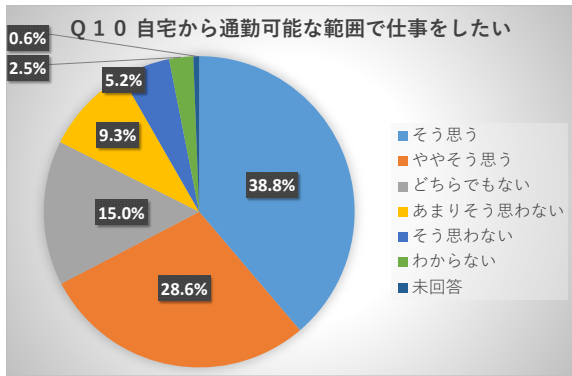
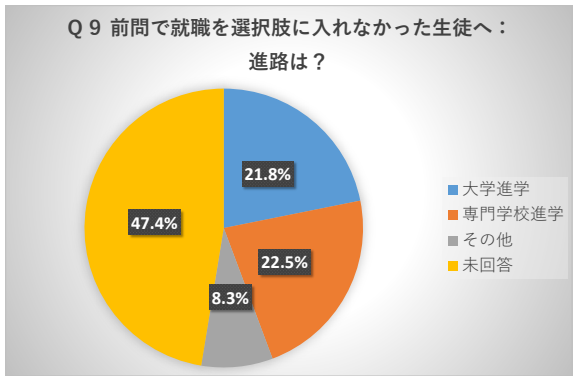
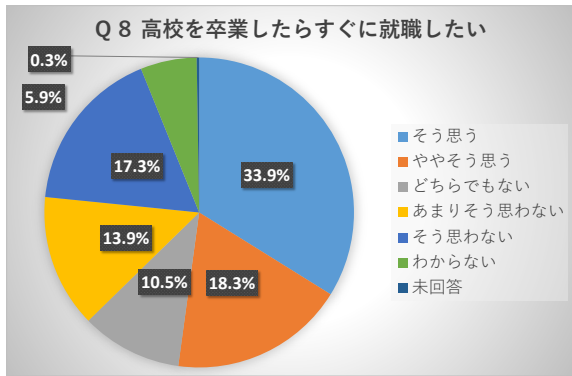


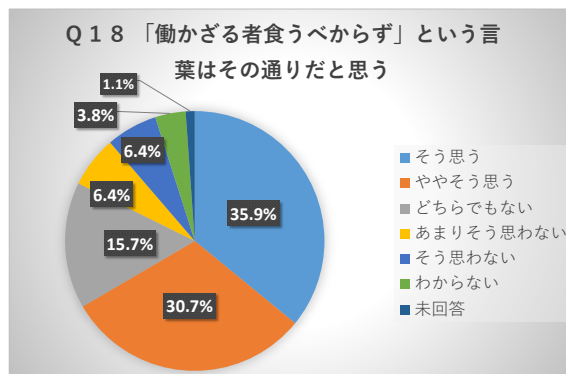
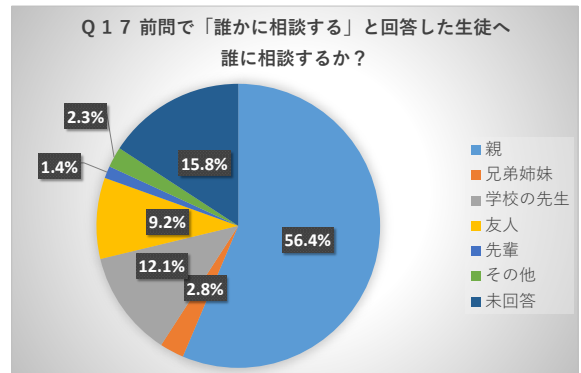
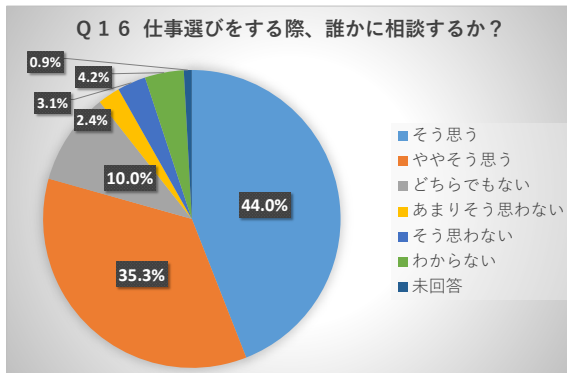
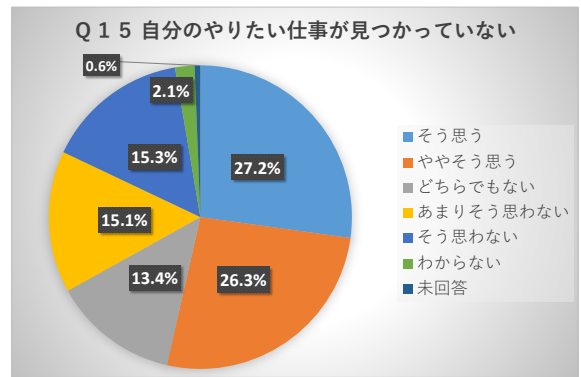
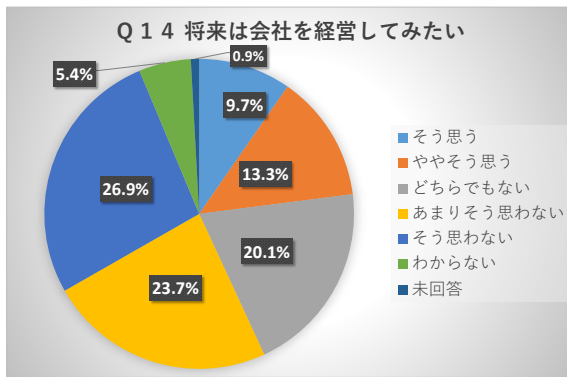
通建業界に対するイメージ



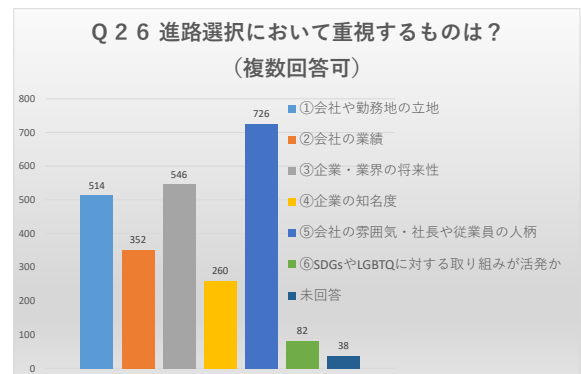
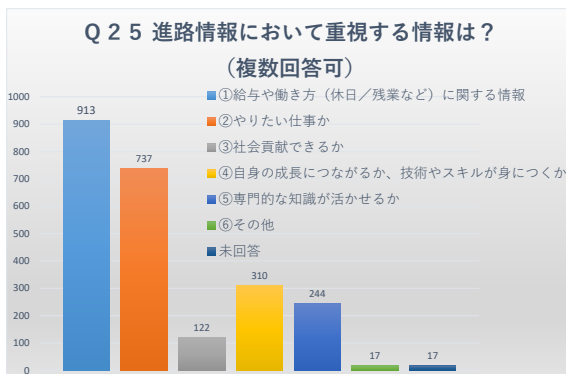
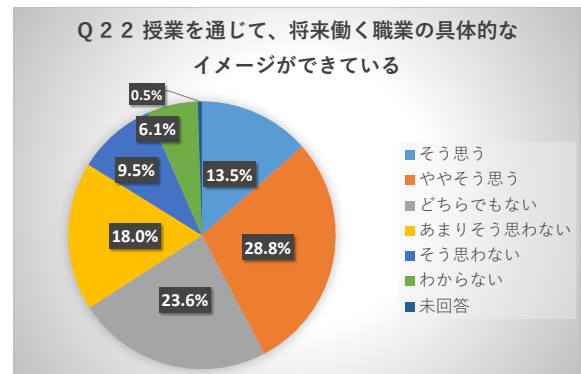
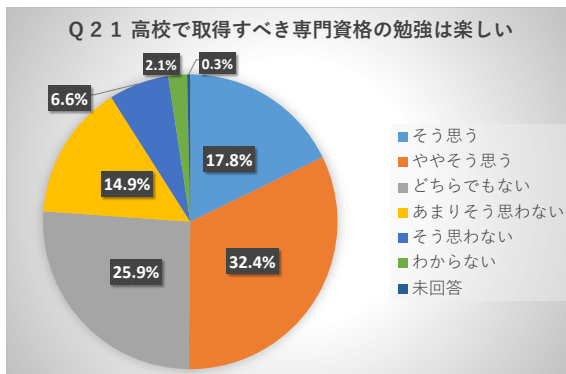
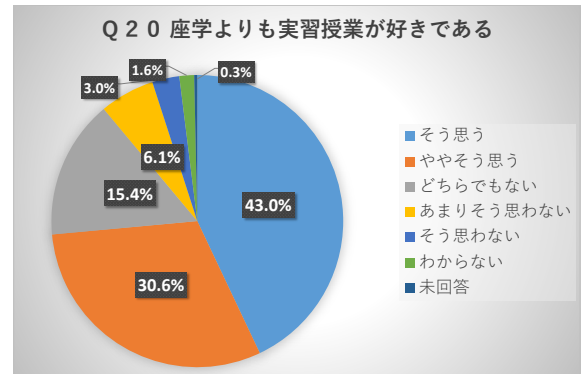
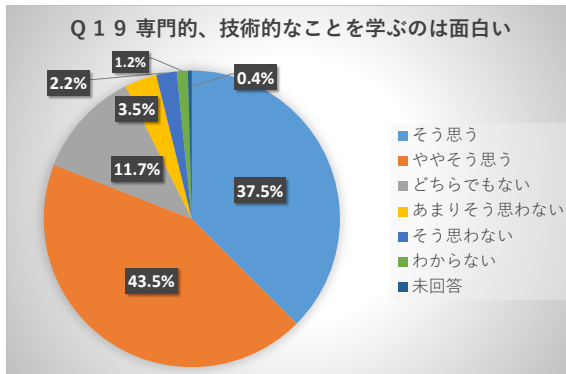


就職に対するイメージ

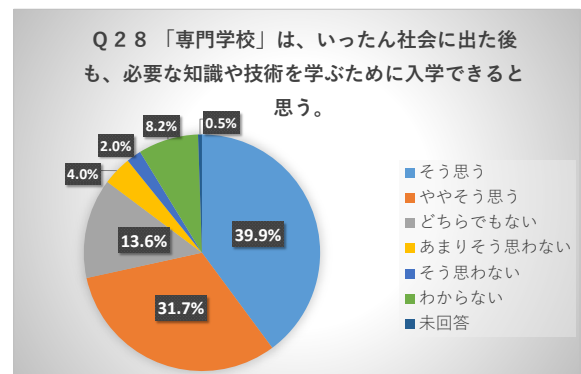
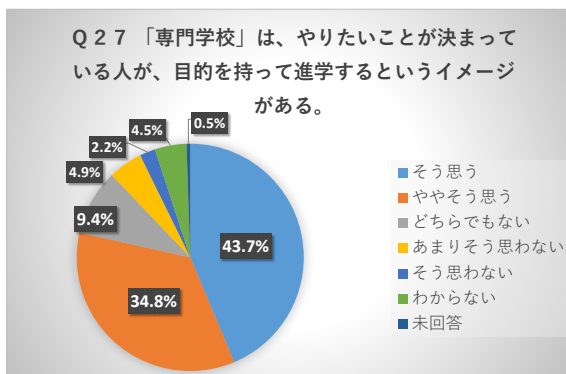




高校生活に対するイメージ



専門学校に対するイメージ



第4項 育コンテンツの開発と実証講座の実施

○ 開発した教育コンテンツの概要

今年度は、以下の4つの教育コンテンツを開発した。

i) 名称及び内容

I CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材改修と実証講座の実施

- ・制作教材： Cisco パケットトレーサーによるネットワーク構築実習
テキスト（34 頁、PDF 形式）
投影資料（12 枚、PDF 形式）
- ・実証講座： 三郷工業技術高校にて実施（3 時間×3 日間：詳細は後述）

II 情報科目の教育コンテンツ（ネットワーク入門）の開発と実証講座の実施

- ・制作教材： ネットワーク入門（「WEB ページが見られる仕組み」
講義用教材（PPT スライド 10 枚×4 コマ）
課題（PDF 形式 × 4 回分）
- ・実証講座： ヒューマンキャンパス高校大宮学習センター及び
松陰学園高校みなとみらい学習センター（各 2 コマ×2 日）

III 通信建設エンジニアリング講座（ライフライン/設備編）教材制作と試験問題の制作

- ・制作教材： 建設講座（ライフライン 設備編）
講義用教材（10 コマ分/Word 形式 107 頁）
課題（PDF 形式）40 問
試験問題（Word 形式 30 問）

IV キャリア教育講座の制作

- ・制作教材： キャリア教育科目
講義用教材（PPT スライド 20 枚×21 コマ）
課題（PDF 形式）×22 種
授業 指示書（23 回分）1 部

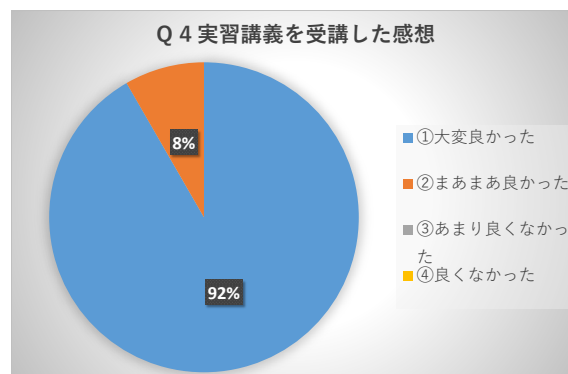
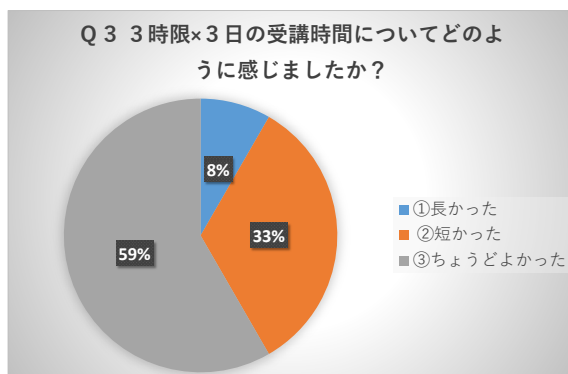
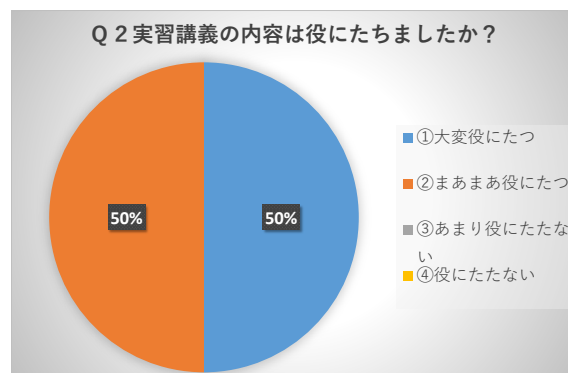
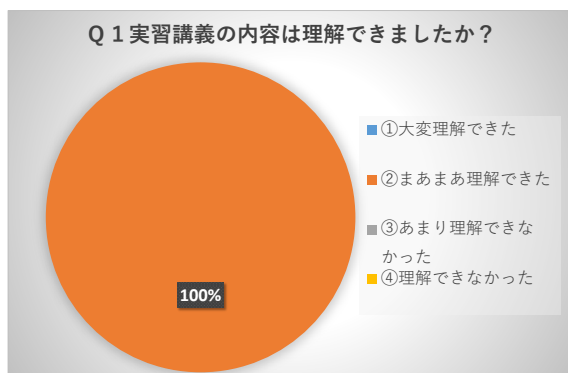
○ 開発した教育コンテンツの実証講座の実施

今年度開発・改修した教育コンテンツのうち、「CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク」と「情報科目の教育コンテンツ（ネットワーク入門）」工業高等専門学校において実証講座を開催し、検証した。

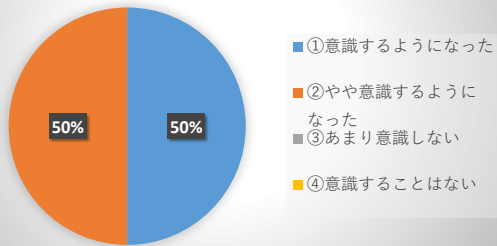
I. CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 教材実証講座

対象者	三郷工業技術高等学校 情報電子科					
実証日	第1グループ（各3時限）			第2グループ（各3時限）		
	R5. 9. 15	R5. 9. 22	R5. 9. 29	R5. 10. 6	R5. 10. 20	R5. 11. 10
受講生徒数	5名			8名		
講義概要	第1日		第2日		第3日	
	<ul style="list-style-type: none"> ・2台のPCを接続 ・3台のPCを接続 ・スイッチの設定・確認の仕方 		<ul style="list-style-type: none"> ・異なるネットワークに接続 ・遠隔からルータを操作 ・スタティックルーティング 		<ul style="list-style-type: none"> ・自動でPCにIPアドレスを付与① ・自動でPCにIPアドレスを付与② ・アクセス制限 	

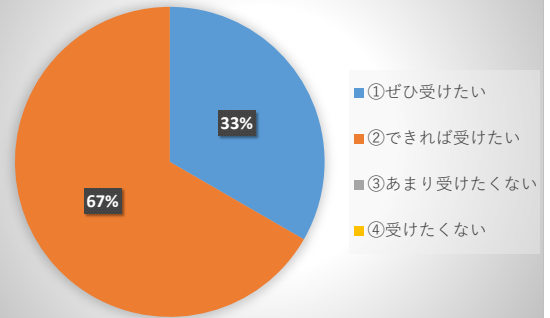
【受講者からのアンケート結果（n=12）】



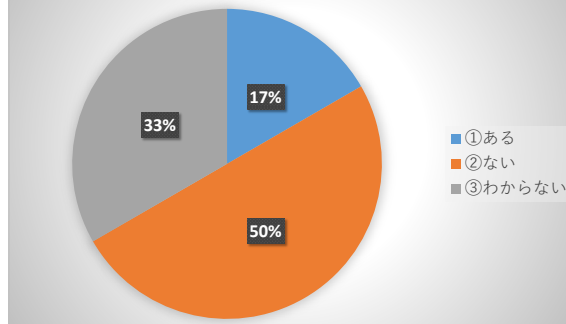
Q 5 実証講義を受けたことで、日常生活でネットワークについて意識するようになったか？



Q 6 外部講師の講義をまた受けてみたいか？



Q 7 講義内容で、疑問点はあるか？



【実証講義風景】



【実証講義の感想について（アンケート自由記入欄より抜粋）】

- ・ 座学で学んだ内容を、実際に自分で打ち込んで、作業をすることでより理解が深まりました。難しかったけれど、とても楽しい内容でした。またとても勉強になりました。
- ・ 初めてやる作業が多く、とてもよい経験になりました。将来自分も同じ作業をやるかもしれないので、仕事で今日のことを活かしたらよいなと思います。
- ・ とても通信について深く知ることができました。今後はこの実習内容を意識しようと思います。
- ・ 日常生活で当たり前に使っているものを学ぶだけでこんなに色々なことをやっていたことを知れてよかったです。
- ・ 丁度よい進行の速さと作業量だったと思いました。
- ・ 工業高校じゃないと分からなかったんだと思うと、とても貴重な授業だったと思います。
- ・ 理解するのに少し時間が必要だったりしたんですが、とても楽しかったです。
- ・ 将来のことを想像しながら講義を受けることができた。貴重な体験ができて良い経験になった。
- ・ 通信事業を通じて、人々を支えることが夢です。
- ・ 始めの頃は全然分からなかったけれど、後半になるにつれて、少しずつ理解できるようになったのですが、まだまだ完全には理解できないことも多かったので、友達や先生の力を借りて最後まで出来たので良かったです。良い経験でした。
- ・ 結論から言うと、とても奥の深いものだと感じました。後半では、一時全ロスしましたが、周りの人の力を借りて無事終わらせることができました。しかしやはりとても難しいと思いました。
- ・ 今日の実証講義にて、プログラミング自作が少々苦手で、初めの授業は不安があったのに対し、講師の先生並びに学科の先生が丁寧に教えてくださったおかげで、多少理解ができました。（略）
1つ疑問に思ったのが、パソコンとルータとスイッチも可視化できる事や、そのプログラムはどうやって分かったのか、等が知りたいと思いました。3週間の実習講義でこのような体験をさせていただきありがとうございました

【実施高校教師からの評価】

実証講義に立ち会った三郷工業技術高校教諭（検討委員）から

所感

私が所属している情報電子科では、通信技術を学習の柱の一つとして位置づけ、座学や実習を通して学習している。昨年度まで実習内容はアクセス系（作業を中心としたもの）ばかりであったが、今年度初めてIP系（ネットワーク系）を導入した。そのため生徒が興味を持って進めることができるか不安であったが、終わってみると反応もよく、実施してよかったと感じている。実習の難易度を徐々に上げたが、自分の知識を確認しながらスムーズに作業できた場面と、理解よりも作業が優先になってしまった場面もあり、座学との連携が重要だと改めて感じた。教員側への課題も残ったが、このような実習は、通信技術を学ぶ生徒には必要不可欠であると強く思った。

成果

実際に仕事として携わっている企業のスペシャリストから講義を受けられたことは、大変貴重な機会と考えている。ネットワーク自体は生徒にとって大変身近なものであるが、工業高校の生徒としてその仕組み等に興味・関心を持たせ、知識や技能を習得できたことが一番の成果と感じている。初めは困惑気味でいた生徒達であったが、ソフトウェアの使い方や機器の操作手順や設定も慣れてくるとスムーズにできるようになり、そこに理解が加わると自分で率先して課題に取り組む姿勢や、困っている生徒のサポートにまわる姿も見られ、積極性や協調性も育めた。生徒の中には今回の実習内容を仕事とする者もあり、この経験を企業で役立ててくれるはずと期待ができた。

課題

ネットワーク構築に必要な知識は膨大にあり、時間をかけ深く学び、理解をし、それを確認することが必須である。しかし限られた授業時間では大変難しく、そのため生徒は自主的に学ばない限り、広く浅い知識や経験しか持ち合わせる事しかできない。今回はシミュレータを用いた実習環境だったが、理想は実機に触れて設定や確認ができることが経験としては望ましいと感じる。しかしそのような実習環境を整えることはハードルが高い。また学校でのデジタル機器の利用現状もパソコンからスマートフォンやタブレット等へ変化しており、キーボードを操作することが苦手な生徒も少なくない。ネットワーク機器の設定等は CUI が多いため、単純な事ではあるが問題視している。次に生徒以上に教員に対しては専門知識と経験が必要になる。短期間でも、指導する教員側へのサポート（外部の研修会等）があると大変ありがたい。最後に、今回の実習に限らず生徒に興味関心を持たせ知識と技能の両方を確実に習得させることが、大きな課題である。

【今後の取組】

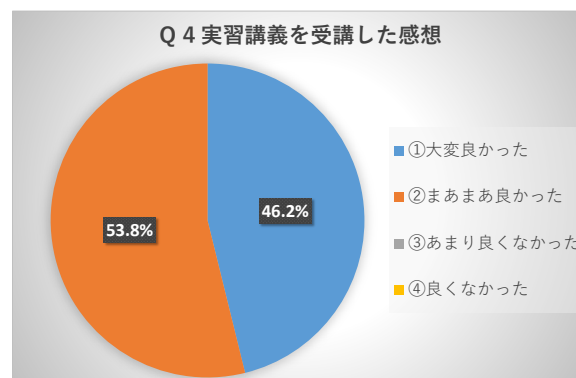
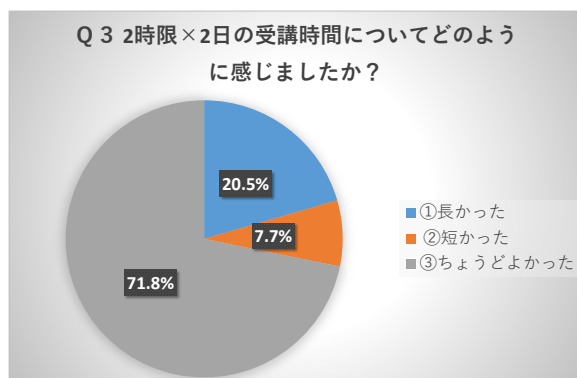
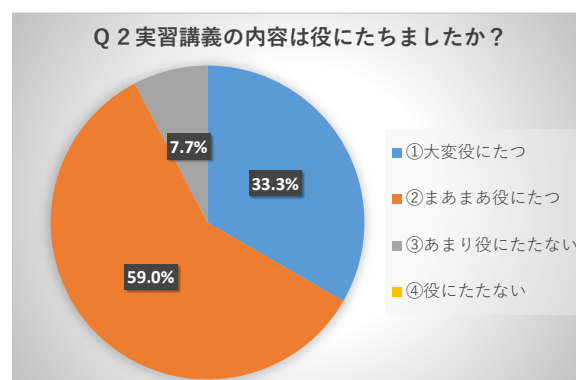
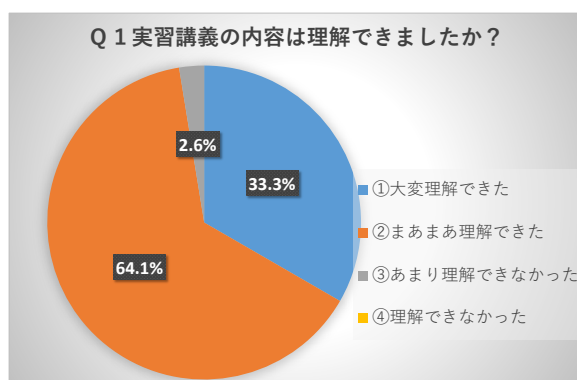
令和 5 年度にシスコシステムズによる CCNA 資格を参照した実証講義コンテンツを開発したが、高校側との協議により内容の難易度を下げて改修し、三郷工業技術高等学校にて実施。高等学校と専門学校による連携体制構築も実証趣旨に含む。電気通信工事業界の業務が OSI 参照モデルによるところのレイヤ 1~2 を中心とした業務にある一方で、当該講座の範囲であるレイヤ 3~4 においても接点がある点、業界企業において業務の範疇にある企業も多数あるとの観点から、情報電子科を専攻している生徒 13 名に対し、同校の実習時間コマ 9 時間を使用することで高専産連携授業として授業計画に盛り込んだ。講座内容としては CCNA 資格取得に向けての入門的な位置づけであり、今年度以降の事業においてコンテンツのステップアップ化と長期化を図りたい。

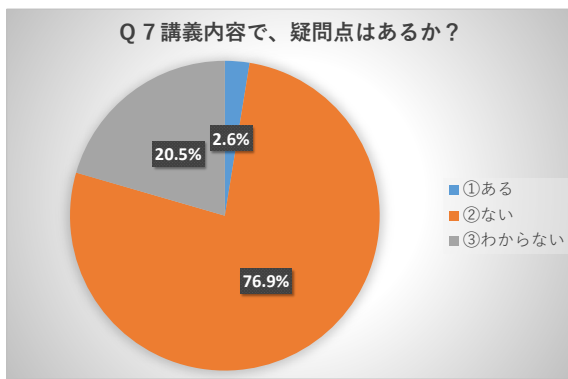
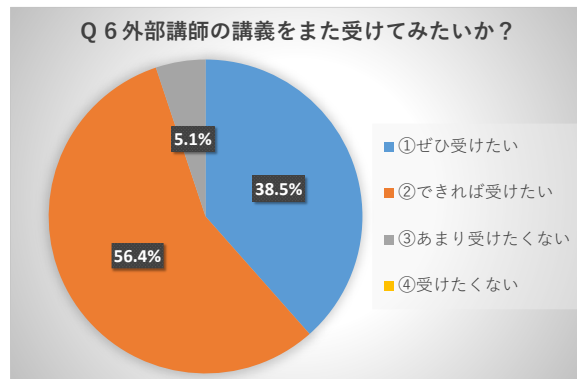
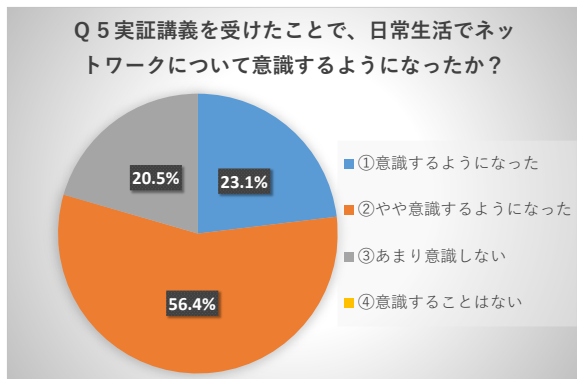
また、指導する教員をサポートする体制についても検討したい。

Ⅱ. 情報科目の教育コンテンツ（ネットワーク入門）の実証講座

Ⅱ 情報科目の教育コンテンツ（ネットワーク入門）の実証講座				
対 象 者	ヒューマンキャンパス高等学校		松陰高等学校	
期 間 (日にち・コマ数)	第1・2コマ	第3・4コマ	第1・2コマ	第3・4コマ
	R5. 12. 14	R5. 12. 21	R6. 1. 12	R6. 1. 19
受 講 者 数	17名		22名	
講 義 概 要	第1・2コマ		第3・4コマ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・WEB ページの構成全体像 ・WWW ってなに？ ・HTML 言語を使って実際に HP を作成（実習） 		<ul style="list-style-type: none"> ・URL の構造解説 ・DNS サーバとは？ ・IP アドレス、DNS サーバの確認（実習） ・【番外編】「0」と「1」の世界に触れよう（実習） 	

【受講者からのアンケート結果（n=39）】 ヒューマンキャンパス・松陰両高等学校からの回答を集計





【実証講義風景】

ヒューマンキャンパス高等学校

松陰高等学校



【実証講義の感想について（アンケート自由記入欄より抜粋）】

ヒューマンキャンパス高等学校	松陰高等学校
<ul style="list-style-type: none"> ・今回の講義を受けて少しエンジニアという仕事に興味を持つことができました。 ・難しいことが多いかもしれませんが、WEB ページの作り方やWEB サーバーについて、もっと知りたいと思うことができました。今はまだわかりませんが、将来はエンジニアになることも少し考えてみたいと思います。 ・ネットのことを深く知りたいと思ったので、もしかしたらエンジニアになるかもです。 ・普段はあまり聞けない話を聞いてよかった。 ・今回の講義はすごく勉強になりました。また今度受けたいです。 ・今回の講義でネットワークの事ができてよかったです。 ・今まで当たり前にあったもののしくみを改めて学ぶのは、とてもおもしろいと思った。 ・Web 作ったりするのがちょっと楽しそうだと思った。 ・説明も分かりやすく楽しく授業を受けられました！ ・中3の時に似たような題の学習を計14時間行ったけど、普通に今回の2時間の方が分かりやすかったし、楽しかった。寒河江さんの声がハキハキしていて大きくて耳に入りやすくて良かった。私生活でたまに見かけたなみたいなものが（講義で）出てきて気になってたら、普通に全部解説してくれてとても助かった。寒河江さんだからよかったかは分からないけど、今後もこういう講義を受けてみたい。望むならまたこの人が良いなって。 ・将来の夢はなかったけど、割とガチでエンジニアに興味わいてきてうれしい。 ・インターネットは身近なものだけど、知らないことも多かったなので、とてもためになりました。 ・WEB のことが深く知れて良かったし、2進数から10進数にするのが面白かったなので、またやってみたいと思った。自分のPCなどで実際にやってみようと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段あまり意識することのない分野について知ることができたので非常に有意義な時間を過ごすことができました ・今回の講義が非常に自分の為になったと感じたので、今後も今回のようなコンピュータ、インターネットについての講義を受けたいと思った ・日常では絶対に気づかないことを知れてとても勉強になりました ・私はパソコンで作業することが好きなので、今回仕組みを知ることができて面白かったです。WEB サイトをつくることは難しいと思っていました。しかし、簡単なものではありますが、つくることができてうれしかったです ・1つ1つわかりやすく、パソコンを使うのが苦手でも、理解することが出来ました ・コンピューターの難しい概念を日常のものに例えたりしてわかりやすく説明していたのが良かったです ・興味深いお話を沢山伺えて良かった。またFCやSFCやPSへのお話があったのがテンションが上がって良かった ・日常で2進数が隠れていておもしろかった。たしかにIPV4ではせいぜい10億台しかIPアドレスをふれないのでIPV6ができたことは非常に大切だと感じる ・URLや、WEB ページのことは何も知らなかったので色々とびっくりすることが多かったです。サーバーがとても高性能なコンピューターだというのは聞いたことがあったので、それ以上のことも知れたので良かったです <p>めったに考えないことを教えてもらった</p>


<p>プログラム?と進数について学びましたが、今後の生活に役に立ちそうなお話で、最後は頭を使うおもしろい内容で講義を受けていてとても楽しかったです。</p>	
<p>【実施高校教師からの評価】（ヒューマンキャンパス高等学校教諭）</p>	
<p>所感 生徒たちが講師のお話にどんどん引き込まれていく様子がわかりました。 web ページが見られる仕組みを学び、基礎的な html のコーディングを体験したことでより web の世界がより身近に感じられたようです。 また、2進数→10進数の変換をゲーム感覚で行ったことで楽しいものだと思えたようです。</p> <p>成果 受講者全体の web 製作に対する興味関心が高まった。 実際にエンジニアを目指したいという生徒が出た</p> <p>課題 強いて言えばワークシートなど、PC以外で手を動かすものがあるとさらによいと思いました。</p>	
<p>【今後の取組】 昨年度（「プログラミング入門」）に続き、今年度の実証講義（「ネットワーク入門」）も生徒・教諭から高い評価を得た。デジタル情報通信は様々な要素で構成されており、「情報1」で扱う単元への対応という観点からも、別の角度からのコンテンツの開発を検討したい。 また、講義対象の拡大についても検討したい。</p>	

○ その他の開発した教育コンテンツの検証

<p>Ⅲ 通信建設エンジニアリング講座（ライフライン/設備編）教材制作と試験問題の制作 昨年度は、「建設分野(電気通信職種)特定技能1号評価試験テキスト」の内容を図解も含めてテキスト化し、ナレーション解説を付けた動画制作を行ったが、委員から単調である間延びしているとの指摘・意見を受けていた。そういった指摘を踏まえたうえで、今年度は、「建設分野(ライフライン/設備編)」のテキスト制作・試験問題の制作を行った。</p>
<p>Ⅳ キャリア教育講座の制作 本年度は、開発・制作のみで、検証については次年度以降に行う。</p>

第5項 業界紹介イベントの開催

○ 業界周知のために開催した業界紹介イベントの概要

<p>参 加 者</p>	<p>大宮工業高校 中央情報専門学校 川口工業高校班分け 三郷工業技術高校</p>
<p>日 時</p>	<p>R5 年 12 月 20 日 午前の部 10 : 00 ~ 12 : 00 午後の部 13 : 30 ~ 16 : 00</p>
<p>場 所</p>	<p>ミライト市川研修センター</p>
<p>協 力 企 業</p>	<p>株式会社ミライト・ワン 株式会社ミライト・モバイル・イースト / 株式会社タカデン 株式会社リガーレ / 株式会社町田電話工業 株式会社井上通信 / 株式会社大電テクニカ</p>
<p>参 加 者 数</p>	<p>高校生 87 名 専門学校生 13 名</p>
<p>イ ベ ン ト 内 容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力企業による業界・お仕事紹介 ・ 研修センター施設の各種設備を利用した電気通信業界体験 <ul style="list-style-type: none"> ハーネスを装着した鉄塔での作業体験 融着機を使用したケーブル接続体験 電柱建設体験 屋上太陽光パネル等設備見学 ・ ゴーグル利用による「通信エンジニアのお仕事 VR 体験」 業界ユニホーム体験(電熱ベスト、空調服)
<p>イ ベ ン ト 告 知 ペ ー ジ</p>	 <p>The image shows a promotional graphic for the '通信産業2023' (Telecommunications Industry 2023) event. At the top, it says '通信産業2023' and '「未来をつなぐ」を仕事にしよう!' (Let's make 'connecting the future' our job!). Below this, there is a network diagram with nodes and lines. The event details are listed: 開催日時 (Event Date/Time): 2023年12月20日 (2023 Dec 20), 10:00-12:00 (10:00-12:00), 13:30-16:00 (13:30-16:00). 会場 (Venue): ミライト市川研修センター (Miraito City Kawasaka Training Center). The bottom part of the graphic shows several communication towers of different shapes and sizes against a colorful background.</p>

【お仕事紹介パネル】



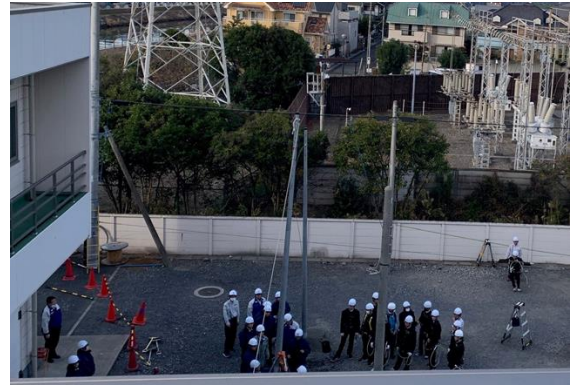
【お仕事体験 VR 動画】



【ハーネス装着体験】



【建柱穴掘り体験】



【鉄塔・高所作業車 作業体験】



【光ファイバ融着接続作業体験】



成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加学生に電気通信工事業界の仕事内容を周知できた。 ・実際に身体を動かす体験型のコンテンツを企画したことによって、記憶に残るよう経験を提供できた。
課 題	<p>全国への水平展開を行うためには、イベント開催は導入として重要な位置づけであるため、関東圏の学生だけではなく、遠隔参加者も楽しめるオンラインコンテンツの開発・企画が課題である。</p>

第3節 事業実施に伴うアウトプット(成果物)

第1項 年度別(令和3~8年度)アウトプット一覧

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実態調査報告書	<ul style="list-style-type: none"> ●企業へのアンケートによる調査 ●学生を対象とした職業紹介イベントによる意識調査 	<ul style="list-style-type: none"> ●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング 	<ul style="list-style-type: none"> ●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング
教材開発 (講義・演習)		<ul style="list-style-type: none"> ●高校1年次(入門講座) ●専門学校1年次(eラーニング) ●工業高校3年次(NW科目) 	<ul style="list-style-type: none"> ●高校2年次 ●専門学校1年次 ●工業高校3年次(NW科目)
実証講座		<ul style="list-style-type: none"> ●実証講座R4年度実施報告 	<ul style="list-style-type: none"> ●実証講座R5年度実施報告(NW科目)
職業紹介イベント	<ul style="list-style-type: none"> ●職業紹介イベント実施報告 	<ul style="list-style-type: none"> ●職業紹介イベント実施報告 	<ul style="list-style-type: none"> ●職業紹介イベント実施報告
事業報告・広報	<ul style="list-style-type: none"> ●事業報告書 ●事業PR動画 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業報告書 ●事業PR動画 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業報告書 ●事業PR動画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度
実態調査報告書	<ul style="list-style-type: none"> ●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング 	<ul style="list-style-type: none"> ●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング 	
教材開発 (講義・演習)	<ul style="list-style-type: none"> ●高校3年次科目(前半) ●専門学校2年次科目(前半) 	<ul style="list-style-type: none"> ●高校3年次科目(後半) ●専門学校2年次科目(後半) 	<ul style="list-style-type: none"> ●高一専連携プログラム教材最終版
実証講座	<ul style="list-style-type: none"> ●実証講座R6年度実施報告 	<ul style="list-style-type: none"> ●実証講座R7年度実施報告 	<ul style="list-style-type: none"> ●実証講座R8年度実施報告
職業紹介イベント	<ul style="list-style-type: none"> ●職業紹介イベント実施報告 	<ul style="list-style-type: none"> ●職業紹介イベント実施報告 	<ul style="list-style-type: none"> ●職業紹介イベント実施報告
事業報告・広報	<ul style="list-style-type: none"> ●事業報告書 ●事業PR動画 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業報告書 ●事業PR動画 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業報告書 ●事業PR動画

第2項 令和5年度アウトプット<教材開発/実証講座>

●開発教材「情報科目における入門プログラム(ネットワーク入門編)」

学習想定時間:@50分×4コマ

対象:高校1年次(情報系、工業系高校以外)または工業高校体験入学時用

教材:講義用教材(表示スライド 50P)/課題

●実証講座「情報科目における 入門プログラム (ネットワーク入門編)」

実施期間: R5年12月14日(2コマ) / R5年12月21日(2コマ)

R6年1月12日(2コマ) / R6年1月19日(2コマ)

実証講座の対象者: ヒューマンキャンパス高校大宮学習センター

学校法人山口松陰学園松蔭高等学校みなとみらい学習センター

受講者数: 両校で39名

●開発教材「建設科目 (ライフライン/設備)」

授業想定時間:@50分×10コマ授業用

対象: 専門学校2年生

教材:講義用教材(上記スライド) // 課題課題(10回分)

●開発教材「建設(ライフライン/設備)科目」試験問題の作成と実施

対象: 専門学校生徒

試験形態: ペーパー式

受講者数: 22名

●開発教材「キャリア教育科目」 LMS 搭載予定

学習想定時間:@50分(スライド20枚)×21コマ

対象: 専門学校生徒

教材:講義用教材(上記スライド) / 課題(22種) / 授業指示書

●実証講座(R4開発)「ネットワーク構築・運用講座」

実施期間: R5年9月15日~R5年11月10日 計6日×3コマ

実証講座の対象者: 三郷工業技術工業

受講者数: 13名

第3項 事業実施によって達成する成果及び測定指標

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
業界企業への就職人数	目標値	校		10	10	100
	実績値	校		4	7	—
	達成度	%		40	70	—
(上記 KPI を採用した理由) 高校・専門学校・業界への聞き取り調査						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
意識調査アンケート回答高校数	目標値	校	0	40	45	
	実績値	校	0	31	25	—
	達成度	%		78	56	—
(上記 KPI を採用した理由) 業界の認知度向上のために実施計測しており、経過測定の必要がある。						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
意識調査アンケート回答高校生数	目標値	人	0	2000	2200	
	実績値	人	0	1871	1270	—
	達成度	%		93.5	57.7	—
(上記 KPI を採用した理由) 業界の認知度向上のために実施計測しており、経過測定の必要がある。						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
イベント参加学生数	目標値	人	0	100	150	
	実績値	人	0	106	105	—
	達成度	%		106	70	—
(上記 KPI を採用した理由) 業界の認知度向上のために実施計測しており、経過測定の必要がある。						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
実証授業体験人数	目標値	人	0	50	300	
	実績値	人	0	49	74	—
	達成度	%		98	25	—
(上記 KPI を採用した理由) 当事業において人材育成のためのプログラムは、中核となる部分でもある。						

KPI(成果測定指標)		単位	事業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
Ⅱ 情報科目における 入門プログラム (ネットワーク編) アンケート評価 満足度 4段階評価で「1」又は「2」	目標値	人			90	100
	実績値	人			82	—
	達成度	%			91	—
(上記 KPI を採用した理由) 実証講座参加者アンケートの実施 ※当初のゲーム編→ネットワーク編に変更						
KPI(成果測定指標)		単位	事業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
CCNA/CCENT 試験対策を目的とした ネットワーク授業 アンケート評価 満足度 4段階評価で「1」又は「2」	目標値	人			90	100
	実績値	人			90	—
	達成度	%			100	—
(上記 KPI を採用した理由) 実証講座参加者アンケートの実施						
KPI(成果測定指標)		単位	事業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
高校生意識調査アンケート回答にお いて、通信インフラの仕事への理解 度・興味 6段階で「1」又は「2」	目標値	人			65	85
	実績値	人		49	76	—
	達成度	%			117	—
(上記 KPI を採用した理由) QRコードを利用したWEB アンケートの集計による						

第3章 最終年度までの具体的な取組

第1節 計画の全体像

◆【令和3年度（初年度 ただし2か月間のみ）】

事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の組織化と開催
実態調査の実施
実態調査(1)の企画・設計・実施・分析
実態調査(2)の企画・設計・実施・分析
ジョブフェア（体験学習会）の開催
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス R3 年度版の策定
事業成果のとりまとめ
事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和4年度（2年目）】

事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の開催
専門家・有識者へのヒアリング
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス R4 年度版の策定
指導ガイドライン R4 年度版の策定
e ラーニング教材（通信建設エンジニアリング入門講座）

- ・ 開発
- ・ 電気通信工事人材養成事業の HP での公開

実証講義用教材/演習用教材

- ・ 情報科目における入門プログラム（ゲーム編）開発、実証講義実施
- ・ CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材開発

業界体験型イベント（体験学習会）の開催
事業成果のとりまとめ
事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和5年度（3年目）】

事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の開催
専門家・有識者へのヒアリング

教育プログラムの開発

カリキュラム・シラバス R5 年度版の策定

指導ガイドライン R5 年度版の策定

○ラーニング教材（通信建設エンジニアリング入門講座）改定改良
実証講義用教材/演習用教材

- ・情報科目における 入門プログラム（ゲーム編）

改定改良、講師用教材の開発、実証講義実施校の拡大

- ・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材

改定改良、実証講義実施

業界体験型イベント（体験学習会）の開催

- ・オンラインコンテンツの充実

事業成果のとりまとめ

事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和6年度（4年目）】

事業推進体制の整備と活動推進

実施委員会および部会の開催

専門家・有識者へのヒアリング

教育プログラムの開発

カリキュラム・シラバス R6 年度版の策定

指導ガイドライン R6 年度版の策定

○ラーニング教材（通信建設エンジニアリング入門講座）改良
実証講義用教材/演習用教材

- ・情報科目における 入門プログラム（ゲーム編）

生徒用、講師用それぞれの改定改良、

実証講義実施校の拡大

- ・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材

改定改良、講師用教材の開発、実証講義実施校の拡大

実証講義実施校水平展開

新規教材の開発検討

業界体験型イベント（体験学習会）の開催

内容見直し、・オンラインコンテンツの充実

事業成果のとりまとめ

事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和7年度（5年目）】

事業推進体制の整備と活動推進

実施委員会および部会の開催

専門家・有識者へのヒアリング

教育プログラムの開発

カリキュラム・シラバス R7 年度版の策定

指導ガイドライン R7 年度版の策定

○ラーニング教材（通信建設エンジニアリング入門講座）改良

実証講義用教材/演習用教材

- ・情報科目における 入門プログラム（ゲーム編）
生徒用、講師用それぞれの改定改良、
実証講義実施校の拡大
- ・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材
生徒用、講師用それぞれの改定改良
実証講義実施校の拡大

新規教材の開発検討

業界体験型イベント（体験学習会）の開催

内容見直し、・オンラインコンテンツの充実

事業成果のとりまとめ

事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和8年度（6年目）】

事業推進体制の整備と活動推進

実施委員会および部会の開催

専門家・有識者へのヒアリング

教育プログラムの開発

カリキュラム・シラバス最終版の策定

指導ガイドライン最終版の策定

○ラーニング教材（通信建設エンジニアリング入門講座）最終版

実証講義用教材/演習用教材（最終版）

- ・情報科目における 入門プログラム（ゲーム編）
生徒用、講師用それぞれの改定改良、
実証講義実施校の拡大
- ・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材
生徒用、講師用それぞれの改定改良
実証講義実施校の拡大

業界体験型イベント（体験学習会）の開催

内容見直し、・オンラインコンテンツの充実

事業成果のとりまとめ

事業成果報告書の作成、事業成果の公開

第2節 本事業終了後の成果の活用方針・手法

本事業の要は、高校→専門学校→電気通信工事業界の一気通貫型の人材プラットフォームの構築と運営にある。

産学連携コンソーシアムにより企画する職業紹介・体験イベント(ジョブフェア)は WEB サイト配信も行い、全国対応型として毎年開催する。さらに、コーディネータと協力企業が中心となり、企業が求める習熟レベルに合わせた資格化を検討する。教育プログラムの告知や普及、学習内容のブラッシュアップを資格運営として実施していく予定である。

令和9年度は、コーディネータ、協力企業との協同による認定団体を設立し、以下の業務を行う。

- 試験問題の作成→CBT 試験化
- 合格者の資格認定
- 登録者の管理
- 資格および教育プログラムの企業、教育機関への告知・宣伝
- ジョブフェアの企画運用

令和10年度、11年度以降は、資格事業として普及活動を実施して行く。

ジョブフェアは毎年開催とし、職業紹介と人材マッチングの場を拡大して行く。参画企業の拡大が即ち本事業成果の全国普及につながると期待される。

なお、制作する教育プログラムの内容は電気通信工事業に特化させるものであり、他分野への提供は考えにくい。構築するコンソーシアムとジョブフェアによる人材マッチングの手法は、これを拡大することで、他の職業分野にも十分に活用できるものとする。

令和5年度

「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、株式会社東京リーガルマインドが実施した令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。